

静岡県試験研究10大トピックス（環境衛生科学研究所）

<p>タイトル</p>	<p>産地判別技術の開発により農産物の ふじのくにブランドを守る</p>	<p>研究課題名 期間</p>	<p>重元素安定同位体をトレーサー とした産地判別手法の確立 ーワサビに着目してー (H28～30)</p>
<p>所属</p>	<p>環境衛生科学研究所 環境科学部環境科学班</p>	<p>補職名 研究者名</p>	<p>主査 神谷 貴文</p>
		<p>問合せ先</p>	<p>054-245-0202</p>
<p>研究概要</p>	<p>【背景・ねらい】 農産物の地域ブランド化や輸出拡大、食の安心・安全に対する関心が高まる中、近年、食品の産地偽装は大きな問題となっており、科学的な産地判別手法の確立が急務となっている。本研究で注目したストロンチウム（Sr）は地質に多く含まれており、その安定同位体比（⁸⁷Sr/⁸⁶Sr、以下 Sr 同位体比）は、地質の種類や年代によって特有の値を持つことから地域性が高く、水に溶けたり生物に取り込まれても値はほとんど変わらないことから、生産地域と農産物を直接関連づけるトレーサビリティー指標として大変有用であると考えられた。</p> <p>【成果の内容・特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本県の特産品で、湧水や渓流水などの人為的影響等が少ない環境において栽培されるワサビを対象に、水との Sr 同位体比の相関性を調査した結果、地域性を示す水の値とよく一致したことから、Sr 同位体比によるワサビの主要産地の判別が可能となることを明らかにした（図1）。 ・ 主要河川流域を対象とした Sr 同位体比測定を実施し、これまで当研究所で蓄積しているデータを加えて、ワサビを含め水稻や養魚など湧水・河川水を利用する農水産物の産地判別に適用できる、汎用性の高い県内水系 Sr 同位体比データベースを作成し（図2）、随時更新している。 ・ また、バレイショを対象に、県内主要産地の Sr 同位体比を比較した結果、肥料や降水に起因する値の変化がみられたものの、産地による Sr 同位体比の違いを確認できたことから、畑作物への本手法の展開も期待できる。 <p>【成果の活用・留意点】 産地判別技術の研究開発・検査を進めている（国研）農研機構や（独）農林水産消費安全技術センターと本研究成果を共有し、産地偽装対策に利用するとともに、本産地判別技術情報を広く公開して偽装の未然防止を図ることで、県産農産物に対する安心と信頼を確保し、販路拡大に貢献する。</p>		

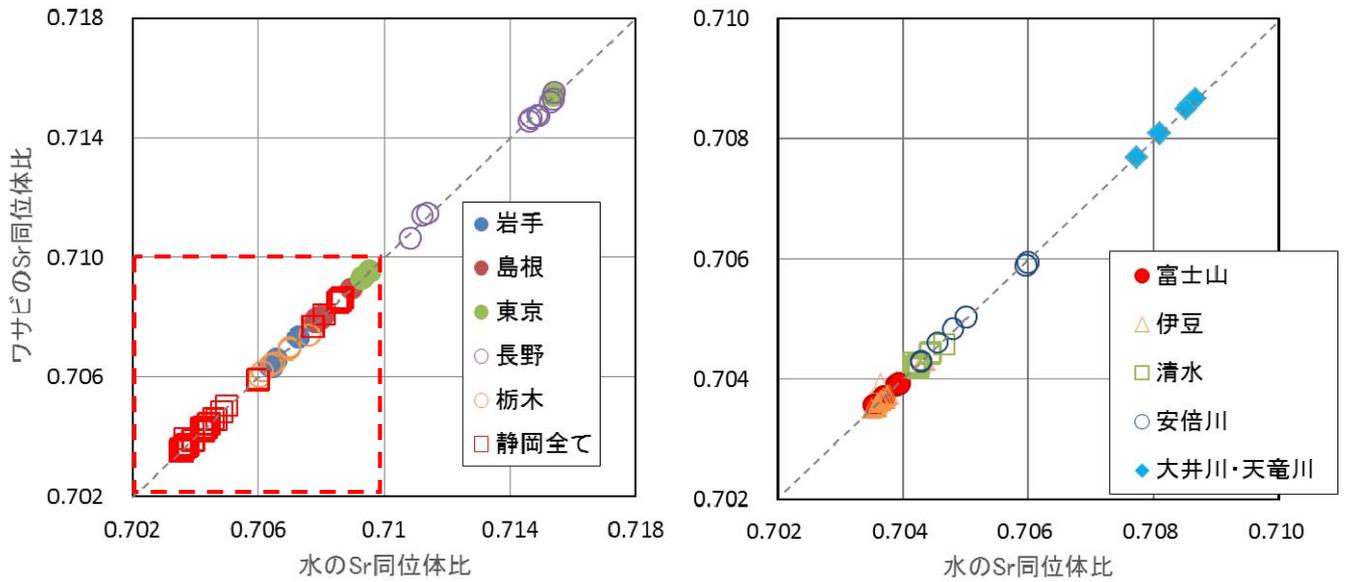


図1 主要産地におけるワサビと水の Sr 同位体比の関係

左図：全国の主要産地。右図：静岡県内の主要産地。

左図の赤点線枠は右図の表示範囲を示す。

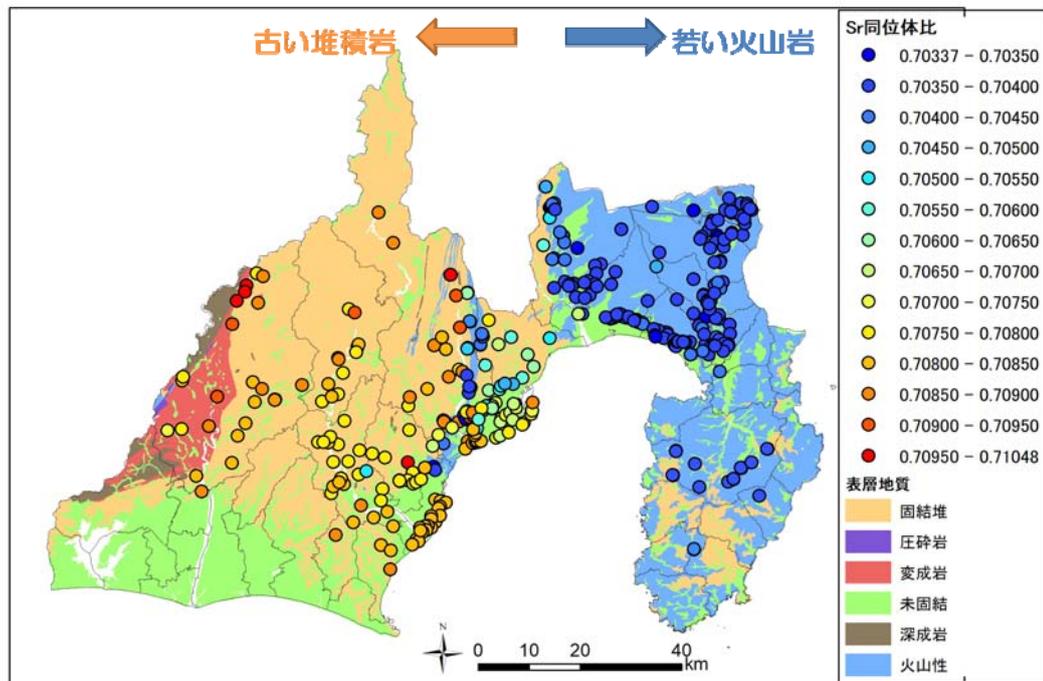


図2 県内水系 Sr 同位体比データベース (マップ)